

保育者ワークショップ

子どもと保育者の心を開放するクレパス画体験

幼児教育学科 准教授 賞雅 さや子

【講座趣旨】

このワークショップでは、クレパスで何かを描くのではなく、好きな色を好きなように塗ったり、重ねたり、ひっかいたりして遊びます。このような活動を通して、絵画の苦手さから子どもを開放し、気持ちを表せたらスッキリすることや、自分の中から表れてくる表現を受け入れることの心地よさを実感します。保育者自身も日常から少し離れて「心の開放」体験をしてみたいと思います。



【開催日時】

平成 28 年 10 月 29 日 (土) 13:30 ~ 15:00

【講座内容】

クレパス画体験は、まず、クレパスの巻紙をむいてしまうところから始まります。多くの人は最初ためらいますが、ビリビリと紙を破くのがだんだんと楽しくなってくるようです。

クレパスという素材は、唯一日本で生まれた画材です。クレヨンが顔料 2 割 + ロウ 8 割なのに対して、クレパスは顔料が 8 割です。そのために画用紙の上で自在に混色が可能なのが特徴です。巻紙をむいて

描くということは、顔料をそのまま手で持って描くということになり、それは描く人の感情をそのまま表現しやすくなるということにつながります。

裸になったクレパスをポキンと持ちやすい大きさに折り、四辺を新聞紙の上にマスキングテープで留めた画用紙に描いていきます。

絵画には「形」と「色」の要素がありますが、一般的な絵画指導の場合、形の中に色をはみ出さないように塗ることを要求します。しかし今回のクレパス画体験では、ただ好きな色を好きなだけ塗る、それだけをひたすら納得するまでやっていきます。「色」は情感を表すと言われますが、このクレパス画の手法は、「情感を解き放ち、その心地よさを実感する」ための手法だといえます。

ワークショップでは、最初はハガキ大の用紙に 1 色のクレパスを塗ってみました。顔料を直接手に持ち、ゴシゴシと塗り付ける心地よさを感じ、さらにその塗ったところを指や手のひらで伸ばしてみます。たった 1 色を塗っただけの作品でも、マスキングテープをはがし、参加者の作品を並べて鑑賞すると、選んだ色、重ねた顔料の厚みなど、どれ一つ同じものではなく、そこに「自分」が表れてくるのに驚きます。



要領がつかめたら、後は好きな色を何色でも使い、画用紙の大きさも自由に変えながら、何枚でも描いていきます。色を塗って伸ばすだけでなく、何色も重ねた色を削る、ひっかくなどさまざまな技法を試しながら表現します。指導者は、頭の中にイメージしたものを画用紙の上に再現しようとするのではなく、その瞬間の色や技法の選択とそれをやっている自分の感覚をじっくり楽しみ、味わうことを促します。そうしていると思いがけない色が表れてきたり、はみだしたり、ひっかいた傷ができてしまったりといろいろなことが起こりますが、そのどれもが失敗ではなく、大切な表現の要素となっていることに気付きます。

ここでは何をしてもいいのだということが飲み込めると、最初は遠慮がちに取り組んでいた参加者の皆さんも、自由な発想で、マスキングテープを貼ってみたり、ヘラや竹串を使ってみたりと工夫しながら



ら、時間を忘れてゴシゴシと手を動かしておられました。ゆっくりと自分に向き合う時間となったのではないのでしょうか。

最後は、皆さんの作品を並べて鑑賞しました。短い時間での体験でしたが、改めて並べてみると出来上がった作品の多様さに感動します。自分から表れてくる表現に驚いたり、表現に没頭することの心地よさを実感したり、何より、そこに表れてくるものは自分の中から浮かび上がってきたものに他ならず、その個性の違いをそれぞれに感じてくださったようでした。「自園の子どもたちともぜひこのような時間を持ちたい。」とおっしゃってくださった方もいらっしゃいました。クレパス画を通して、子どもたちが自分の心の中を開放できる時間をもっと保育の中に作り出すことができたらと願います。

【引用・参考文献】

「子どもの心を開放する絵画療法講座」『保育者養成校大学教員と園のリーダーのための保育特別講座テキスト』（子どもと保育研究所 非売品）

